

第6回 気仙沼市新庁舎建設基本構想策定有識者会議

議 事 要 旨

報告事項

- (1) 第5回有識者会議の議事要旨とその対応について【報告1】
 - ・ 内容は配布資料のとおりであり，説明は省略した。
- (2) 市民との意見交換会について【報告2】
 - ・ 内容は配布資料のとおりであり，説明は省略した。
- (3) アンケート及び意見募集について【報告3】
 - ・ アンケート及び意見募集の結果について説明を行い，質問等を求めたが特に出されなかった。

議事要旨

- (1) 会議の公開・非公開・議事録の作成について
 - ・ 本会議及び議事録については，市情報公開条例に基づき公開とすることで了承を得た。
 - ・ 第6回有識者会議の議事録については，丸谷委員長と加藤委員の署名とする。

- (2) 建設候補地案の選定について

■気仙沼公園について

該当資料：資料2「候補地の比較評価一覧表（案）」P1，資料3「建設候補地の評価資料」P3

- ・ 気仙沼公園（都市公園）については，代替公園を確保しなければならないこと，代替公園を整備するには，用地取得や補償費，工事費などが発生し，用地取得，補償にかかる交渉などにも時間を相当要すること，急な坂を上った高台にあるため交通アクセス上の様々な懸念事項があること，資料2「候補地の比較評価一覧表（案）」の評価が総じて低いことなどから，庁舎建設費に適していないと考えられるため，本日は，主に現地と旧市立病院の2つについて詳細を説明させていただいて，気仙沼公園については，このような背景として現実的な問題もありますので，説明を少し省きながら進めていきたいと思っています。その点について，まずご意見などがありましたら頂ければと思います。

カテゴリ	No	意見等	市当局より
気仙沼公園について	1	・ 代替地が難しいという話があったが，現位置又は旧市立病院跡地を公園にするという案も考えられる。それも含めて議論ではないか。 (吉田委員)	代替公園を整備する際に，誘致距離が定められています。現位置については，それ以上の距離があるので，代替地にはならないと考えています。 また，県より，都市公園を廃止した事例はこれまでにないということで，かなり難しいという指摘を受けています。
	2	・ 事務局から提案のあった，気仙沼公園の説明を省略することについて賛成。 (春日委員，峯浦副委員長)	—

カテゴリ	No	意見等	市当局より
	3	<ul style="list-style-type: none"> 市役所の位置は該当しないということは、県に確認済みか。 (丸谷委員長) 	<p>現在の位置を代替地として進めることについては、県には話しておりません。代替公園を整備する時には、既存と同等の面積や機能のものを作らないといけませんが、現位置は面積が不足するという事情もあります。</p> <p>また、現位置を代替公園とした場合に、ここをただの公園として整備するということで、合意が取れるかという課題もあります。</p>
議長まとめ	4	<ul style="list-style-type: none"> 説明の重点を現位置と旧市立病院跡地に置くが、途中で、気仙沼公園についても聞きたいというご意見があれば、事務局から説明は頂けると思うので、よろしくお願ひしたい。 (丸谷委員長) 	—

■基本方針 1 市民が利用しやすい位置について

該当資料：「資料 2 候補地の比較評価一覧表（案）」P1, 「資料 3 建設候補地の評価資料」P4~14

カテゴリ	No	意見等	市当局より
自動車でのアクセスについて	1	<ul style="list-style-type: none"> 三陸道利用圏外を取り出した理由と、そもそも三陸道利用圏内の方はどうなっているのか。 インターチェンジからの距離について、北方面で5分の差、南方面で2分の差があるが、南方面からの利用者が多いという前提に立つと、時間差だけでなく利用者数を加味すると、現位置と旧病院でイーブンになる可能性はある。 三陸自動車道の圏内と利用圏外について所要時間と利用者数を加味したということをご説明いただかないと、評価として重要な部分ではないか。 (丸谷委員長) 	<p>三陸道を利用して来る場合につきまして、最寄りの北方面及び南方面のインターと、所要時間を概要に記載しています。</p> <p>まず1点目は、基本的には三陸道を使って来る方は唐桑地区と本吉地区の方が多いと思っています。人口は、旧気仙沼市域に比べるとやや少ないというところが一つあります。</p> <p>三陸道を使う方は前提として移動時間が掛かりますので、候補地により2分の差なり5分の差があるが、そこまで重みがないのではないかとこのことを前提として三陸道利用者圏外の平均アクセス時間を分析しているところです。</p> <p>北方面の唐桑地域の方々を使うと想定しますと、大体6,000人ぐらいの人口だと思います。南方面は本吉地域だと思いますが、そちらのほうが人口は多いので、そういった意味でも相殺はされるだろうということも感覚的には持っています。</p> <p>実際、利用者がどこのインターで下りるのかは、まだ完成していませんので、交通行動は分からないところではあるのですが、インターができることから、各候補地までの距離で、気仙沼北インターが近いので、そこは事務局の中で、出来上がった後の交通行動がどうなるのかを検討した結果、一般的にはこちらのインターチェンジを使う人が多いのではないかとこのことで、ざっくりではありますけれども、感覚的に決めたところではあります。</p>

カテゴリ	No	意見等	市当局より
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・現位置は、1つは非常に離れた所、30分や20分あたりのところに少し山があって、それは遠い人と近い人に格差があるということが言える。 ・三陸道利用圏外の自動車アクセス性の資料から平均アクセス時間だけを見れば、わずかな差かもしれないが、各候補地の所要時間と人口の分布の資料から状況を考えると、優れているのは旧市立病院ではないか。 ・資料の指標としては、少なくとも最頻値と中央値は入れていただくことと、上限の4分の1点はどこかも入れてまとめれば良いのではないか。 (吉田委員) 	<p>今、頂いたご意見につきましては、追加で整理をすることが可能と思います。</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・三陸道利用圏外の範囲には、インターに近い所も含まれているがこれはなぜか。 ・中央値、平均値のお話もありましたが、同じメッシュを使っているのであれば、総人口は同じなので、それに掛かっている時間をそのまま掛け算して総和を出してしまえば、走行距離は完全に把握できるのではないか。 (矢口委員) 	<p>インター付近も対象となっていますが、インターにそれぞれハーフインターがあり、行ける方向と行けない方向があるため、実際の利用状況を勘案して、基本的に候補地への経路として三陸道のIC利用が困難と思われる場所については、三陸道を利用しない圏外と設定しています。</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・三陸道を利用する場合の、所要時間に対しての重みは感覚としてよくわからない。 ・大島に住んでいる方は、鹿折を経由するためプラス5分の差が出てくるのか。 ・数分の差がすごく大事という話もあるが、これからモビリティの在り方は変わらと思うので、どちらかというともちづくりの評価の部分に時間を割きたい。 (加藤委員) 	<p>大島の件につきましては、解析は試みたのですが、まず直線距離にほとんど意味がないということと、実際は、現位置であれば一般道で来るかもしれませんし、旧市立病院でありますと三陸道を使って来る可能性があるということ、どちらかという三陸道を使う可能性があるということ、三陸道利用圏という整理をしています。</p> <p>時間の恩恵のところは語弊があったかもしれませんが、例えば30分利用する人が1分短縮になると、5分で来る人が1分短縮になるところの、その短縮の割合で若干差があるのではないかと申し上げました。</p> <p>数分の差については、実際に、市民の意見やアンケートにおきまして、車でアクセスは非常に多くの指摘を受けていますので、できるだけ定量的なものを出さないと説得力がないのではないかと申し上げました。</p>

カテゴリ	No	意見等	市当局より
	5	<ul style="list-style-type: none"> 私は本吉から来庁しているイメージでいうと、評価はやはり現位置の△と旧病院の○が正当な評価と感じている。 できるだけインターに近くしていただきたいというのが、本吉のほうでいろいろ聞いた中で出た意見である。 (小野寺(克)委員) 	<p>市民の皆さんは、(実際の距離や時間を)計ってアンケートを書いているわけではないと思うので、感覚で書いていると思います。多分、現位置は、この前の道路1本しかないように感じている。多分、旧市立病院は、田中のほうからも来られる、南からも来られる、北からも来られると感じるので、定性的にはアクセスが良いと感じている人が多いのだと思います。</p> <p>現位置は、この道路を利用しなければ来られないというようなイメージを、特に少し遠い所に住んでいる人は思っているのではないかと思います。</p> <p>(市長)</p>
	6	<ul style="list-style-type: none"> 今後数十年間で交通の在り方も変化すると思うので、評価が旧病院の○と現位置の△はどうなのか。一旦評価を据え置くことも考えられる。 今後の評価項目で同じ○や△でもでも、重さが違うと思う。 最終的に振り返って評価について再度議論することでもよいのではないか。 (菅原委員) 	
	7	<ul style="list-style-type: none"> 評価に差をつけるのはいいと思う。ただ、評価が旧病院の○と現位置の△というほど差が付くのか、○と△の差の間のところかと思う。 (峯浦副委員長) 	
	8	<ul style="list-style-type: none"> 三陸自動車道利用圏外の自動車のアクセス性の資料については、標準偏差などを計算していただきたい。標準偏差を見ると、多分、評価の公平性が確認できる。 公平性が高く、交通条件からいけば、評価は、明らかに旧市立病院が○。よって、この旧病院の○と現位置の△でいいと思う。 (吉田委員) 	
	9	<ul style="list-style-type: none"> 階上に住んでいますが、旧市立病院に行く、もしくは現市役所に行くことは、どちらも同じような感覚で、1・2分違って、交通状況等条件によっても異なるだろう。 よって、この旧病院の○と現位置の△の評価は、妥当だと思う。 (小野寺(有)委員) 	—
	10	<ul style="list-style-type: none"> 時間よりも行きやすい場所という観点からになると思う。その面で、この評価について、旧病院の○と現位置の△は良いと思う。 (遠藤委員) 	—
議長まとめ(自動車でのアクセスについて)	11	<ul style="list-style-type: none"> 自動車でのアクセスについて差はあるが、その差をどのように捉えるかについて、わずかかもしれない意見、あるいは、その差はあまり考えなくてもいいのかもしれないという意見があり、明確に差はあるのではないかというようなところまで、委員の意見に広がりがあった。 (丸谷委員長) 	—
十分な駐車場の確保について	12	<ul style="list-style-type: none"> 想定駐車台数は、現位置が数台多い記載となっているが、まだ建物設計が決定していないので、このぐらいの差であれば、差がないという解釈で良いか。 (丸谷委員長) 	そのとおりです。

カテゴリ	No	意見等	市当局より
	13	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場の想定必要台数があつたかと思いますが、それと各候補地の想定駐車台数を比べてどうなのか。評価を現位置の×と旧病院の△にした理由は、なぜ駐車台数が現位置は274台で、旧病院の268台より多いならば、評価は、現位置が○、旧病院が△ではないのか。どちらも不適合なのかを確認させていただきたい。 (菅原委員) 	<p>駐車場の台数の考え方については、第3回の有識者会議でご審議いただいております、174台の設定にしています。</p> <p>現位置は、この台数を確保する上では立体駐車場になります。病院跡地は平面の駐車場の扱いで、現在は考えています。さらに、市民の意見の中でも、平面の駐車場が利用しやすいという意見もあり、そのような差として入れました。</p>
	14	<ul style="list-style-type: none"> ・旧市立病院の評価が△となっているが、○と評価しなかった理由をお聞かせいただきたい。 (丸谷委員長) 	<p>旧病院につきましては、敷地の造成の仕方によって、確保できる平表面積はかなり変わらと思っています。また、敷地内にはないものの、周辺に市有地（旧第3駐車場・第5駐車場等）があることで拡張性があると考えたので、評価を○ではなく△の表現にしています。</p>
	15	<ul style="list-style-type: none"> ・無視してはいけないのは職員駐車場の確保ができるか、できないかだと思う。 ・拡張性があるというのは、具体的に何でしょうか。 (丸谷委員長) 	<p>位置が決まった際には、議員・職員駐車場を検討すると第3回有識者会議にてご審議していただいております。</p> <p>現位置については、現在、職員駐車場は確保されていません。</p> <p>旧市立病院は、敷地以外にも駐車場（第5駐車場等）が他にあるので、敷地北側の造成の仕方によってはさらに拡張性があり、職員駐車場のスペースが取れる可能性があります。</p>
	16	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が利用しやすい交通条件かどうかなので、市民向けの駐車場が確保できるかどうか最優先ではないか。 ・想定必要台数を確保できているという意味では、現位置も旧病院も、評価は両方○ではないか。 (吉田委員) 	—
	17	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の駐車場も当然あつたほうがいいので、市民が利用しやすい位置という評価項目以外で評価できる場所があれば、評価する部分があつてもいいのではないか。 ・立体駐車場のコストについては、後段の評価項目で反映されるのだろう。 (峯浦副委員長) 	—
	18	<ul style="list-style-type: none"> ・現位置について、立体駐車場は減点要因となるのか。歩く歩数は立体駐車場の方が少ないのではないか。考え次第なのではないか。 (加藤委員) 	—
	19	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化社会を考えると、すぐ止めて、すぐ玄関に行けるような駐車場を望む意見は多い。 ・現状のワンテンビル（立体駐車場）では、発券機が設置されているなどと高齢者にとって事故のもとになるという話もある。 (遠藤委員) 	—

カテゴリ	No	意見等	市当局より
	20	<ul style="list-style-type: none"> 立体化は相当大きいコストとして跳ね返ってくる。 想定駐車台数 270 台の必要面積に換算すると 8,500 m²となり、現位置の敷地面積 10,105 m²では、立体化しない限り面積が不足することとなる。よって、旧市立病院の評価は優位になると思う。 (矢口委員) 	—
	21	<ul style="list-style-type: none"> 第二庁舎部分を駐車場にする場合に、前面道路からのアプローチを確保することは高低差や面積の点から相当難しいのではないか。 (峯浦副委員長) 	—
議長まとめ (十分な駐車場の確保について)	22	<ul style="list-style-type: none"> 立体駐車場を平面駐車場と同等に見るか、それとも立体駐車場のほうが高齢者等には厳しいというご意見の両方があった。 設計上の制約について、現位置の上の段(第二庁舎部分)は敷地内でのアプローチが厳しいので、公用車駐車場にしかできず、市民の方を誘導することは考えにくいような制約がある。旧市立病院は、自由度がある。 現位置は敷地の高低差があるので、ワンテンの部分を立体駐車場とすることしか難しいのではないかという制約がある。 よって、評価に差があるということなのか、現位置と旧病院の両方とも○でいいのか、2つのご意見があったということで前に進めたい。 (丸谷委員長) 	—
BRT (JR)でのアクセスについて	23	<ul style="list-style-type: none"> 気仙沼駅は大船渡線の2系統が乗り入れていることは評価への影響が大きい。評価はこのままでいいと思が、その差は僅差ではないかと考える。 (加藤委員) 	—
	24	<ul style="list-style-type: none"> 例えば八日町の支所駅、気仙沼市役所駅も、BRT だったら作れる可能性も出てくることも言及しておいたほうがいい。 (加藤委員) 	<p>現実的に、駐車场面積として 270 前後の台数を確保するために、現在の第二庁舎敷地部分に市の公用車の駐車場を考えています。その中で、現在の本庁舎の敷地に庁舎の建設と、駐車場の面積をと捉えていますので、実際、BRT の駅を整備するスペースを確保することは厳しいと思います。</p> <p>また、現位置北側の BRT の専用道には、トンネルとトンネルの間のスペースが約 200 メートルしかないので、現状で大きな駅舎を整備することは厳しいと考えています。</p>
議長まとめ (BRT (JR)でのアクセスについて)	25	<ul style="list-style-type: none"> 評価はある程度の差はある。・評価は現位置の○と△で僅差ではないかというご意見もあった。 (丸谷委員長) 	—

■基本方針 2 防災上の安全性が高く、防災上の連携を考慮した位置について

該当資料：資料 2「候補地の比較評価一覧表（案）」P2、資料 3「建設候補地の評価資料」P17～P20、P25～31

カテゴリ	No	意見等	市当局より
豪雨災害について	1	<ul style="list-style-type: none"> 先日の豪雨災害で、若干浸水被害があったという件について、ご説明いただきたい。 事実としてそのようなことがあったことは、傾斜地の危険性ということの証明だと思う。（丸谷委員長） 	<p>過去にも、大雨が降ればたびたび被害はありました。建物の西側の食堂がある所に裏から入る入り口がありますけれども、そちらの駐輪場の部分で、上から流れてくる排水があります。そのパイプが外れてしまっていて、その上にさらに側溝が細かったので、そこで若干あふれてしまっていて、食堂の裏の入り口の扉の隙間からいくらか水が入ってきた状況です。</p> <p>実際に水の高さ 10センチぐらいで、隙間から入ってきて、裏の玄関が水浸しになったレベルです。</p>
津波浸水について	2	<ul style="list-style-type: none"> 浸水区域については、東日本大震災の際に浸水したか否かの差を評価しているが、現在政府で新たな津波被害の検討をしているが被害想定が出せていない。防潮堤が健全であれば、現位置まで来ないと考えると差がないかもしれないし、防潮堤が壊れ、東日本大震災と同規模の津波が来ると（評価は）少し下がる可能性もあるが、同規模の津波が来るかどうかはわからないなかで、評価を現位置は○で旧病院は△というように差をつけるべきかが議論となると思う。（丸谷委員長） 	-
	3	<ul style="list-style-type: none"> 今回は最大級の津波の浸水想定範囲ですが、最大級の津波が来た場合に防潮堤は機能するのか。（小野寺（克）委員） 	<p>現在整備している防潮堤は、L1 堤防であり、L2 堤防が東日本大震災と同規模になるので、3・11の津波はL1 堤防を越えて来ます。最大級の津波の想定につきましては、L1 堤防も破壊され、越えてしまうことも想定したシミュレーションになると聞いています。</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> 防潮堤の高さを（内湾で）決める時に、やはり災害危険区域を減らそうと思って議論してきた。 防潮堤の高さにより、市役所まで津波が行ってはいけないとの思い、耐え難い思いの中で防潮堤整備の議論をした経緯からすると、なぜ現位置の評価は△なのかと思う。 そうは言いながらも、最悪の状況で条件を設定しておいて、現行法の中で考え得るところで、どこまで許容するか。それによって評価が変わるのではないか。（菅原委員） 	-
	5	<ul style="list-style-type: none"> 過去の津波被害の歴史から見ても、我々は大津波が来るような地区に住んでいるという認識は忘れてはならない。（小野寺（有）委員） 	-

カテゴリ	No	意見等	市当局より
土砂災害について	6	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）について、工事によって災害は防げることか。 （小野寺（克）委員） 	<p>資料3の28ページの土砂災害特別警戒区域内での制限等について○と×が記載されている資料がありますが、レッドゾーンで建築物を建てる場合に、建物自体に構造強度を加えることが必要になります。そうすれば、1つクリアできるのが○の部分になります。</p> <p>また、土石流（に対しての指定）であれば、砂防ダムを作ることによってレッドゾーンの回避はできます。ただし、レッドゾーン回避ができたとしてもイエローゾーンの指定は残ってしまいます。</p> <p>なので、構造物等を作れば、レッドゾーンが消える可能性はありますけれども、イエローは残るのが、今の考え方になります。</p>
	7	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害について、どうしても避けられないものと、避けようと思えば避けられるものがあるのか、という視点も必要ではないのか。 （菅原委員） 	<p>イエローゾーンを外して、ワンテンの敷地に建てることは可能です。ただし、延べ床面積を確保するとなれば、当然、建物の高さ必要となり、階数も多くなります。また、イエローゾーンの部分に駐車場を考えることも可能です。</p> <p>ただし、実際に東日本大震災で来た津波は、ワンテンの1階に到達して浸水していますので、その点（課題）はあります。</p>
	8	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害特別警戒区域内での制限について、住宅として利用するとか、民間利用するので許可が必要となり、危険がゼロになったわけではない。よって構造物も壊れる可能性や、健全に機能しない可能性があるもので、市役所のような非常に重要な建物が、住宅と同じような基準で許可の可否を決めて良いのかは、よく議論されます。 例えば、建物の耐震性は、一般の民間の施設と比べて、公共的な建物はもう少し強固なものにすべきではないかというような議論があり、構造の基準が違ったりしているので、この許可の可否で○×はあくまでも民間住宅のためにあり、リスクを考える立場もあるかもしれないという点についても解釈をいただければと思います。 現位置は、第二庁舎が土砂災害警戒区域内となるので、第二庁舎を公用車駐車場と想定するならば、災害により公用車を全部失うのは、オペレーション上、すごく大きなハンディであり、これは防災行政上、非常に大きい。 （丸谷委員長） 	—
	9	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害の観点から、現位置のイエローゾーン・レッドゾーンは皆さんがご存じのとおりですけれども、これは非常に危険。 本庁舎が免れたとしても、周辺に土砂があった場合に、交通のアクセスとして孤立の可能性も高いことが考えられる。 （小野寺（有）委員） 	—

カテゴリ	No	意見等	市当局より
全体について	10	<ul style="list-style-type: none"> ・たたき台の案で良いと思う。 (吉田委員) 	—
議長まとめ (防災上の安全性が高く、防災上の連携を考慮した位置について)	11	<ul style="list-style-type: none"> ・津波浸水区域については、旧病院の○と現位置の△と評価する件と洪水・土砂災害・他の防災拠点からのアクセスの確保の4つの項目の評価に格差があるべきという意見があった。 ・ただし、差はあるけれども、この差をどのように評価するかについては、慎重に考えるべきというような意見もあった。 (丸谷委員長) 	—

■基本方針3 市全体のまちづくりを考慮した位置について

該当資料：資料2「候補地の比較評価一覧表（案）」P3、資料3「建設候補地の評価資料」P32～39

カテゴリ	No	意見等	市当局より
市全体のまちづくりへの貢献（市民の利便性やまちのにぎわいの創出）について	1	<ul style="list-style-type: none"> 旧市立病院跡地に市役所ができた場合の評価には、現在の位置に市役所がなくなるということを踏まえての評価になる。 現位置の場合と、旧市立病院跡地の場合、何がどう違うかを考えた時に、現位置であれば、今のままで、プラマイゼロだと考える。旧市立病院跡地に移れば、当然現位置がなくなるので、何も手当てをしなかったら、マイナスのほうが大きくなるだろうと考える。 プラマイゼロということではなく、旧市立病院跡地に移った時に、現位置で発生するマイナスの部分を旧市立病院の評価とすべき。 誰が考えても、この場所からこの役所が失われることのダメージのほうが大きいのと思います。ダメージを与えることを減点として加味した評価で、現位置が○と旧病院が△になると思います。 次回までに、市役所が旧市立病院に移転した場合に、現位置の跡地をどう考えるのか、見通しについて資料を提出いただければ、それを含めての評価としたい。 (吉田委員) 	<p>選ばれなかった所の建物は解体をした上で、何かに活用しなくてはいけないと思います。</p> <p>今の吉田先生の議論だと、現位置に着目されているのですけれども、旧市立病院の周辺の人たちは、多分、市立病院を失ったというマイナスのところを意識されているので、そのような意見も出ていると思います。いずれにしても、残った土地について、廃墟にしないで活用してもらいたいということだと思います。</p> <p>例えば、現位置でなくなった場合に、現位置についてどのようなプランがあるのかというお話ですが、これは次回まで待っても、正確なものを出せません。それは市役所だけで決められることでもないし、住民の皆さん方とも話をしなくてはなりませんし、さらにお金のことも考えなくてはならないと思います。</p> <p>しかしながら、いずれの土地も、更地にしてそのままとは考えられない認識でいます。 (市長)</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> 現位置から市役所が移転すると市域全体でマイナスになるというのが、一般論からすると、経済学的にいても、拠点があれば、一方プラスになって、もう一方がマイナスになるので、現位置のエリアだったらマイナスになるけれども、旧病院のエリアがプラスになることも併せて全体評価ではないか。 要望書を読むとすると、旧市立病院側の期待も大きいみたいなので、旧市立病院側にプラスになることについても、評価しないといけないと考える。 (丸谷委員長) 	

カテゴリ	No	意見等	市当局より
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・現位置と旧市立病院どちらも住民は要望していることから、どちらも評価は〇と〇と思わざるを得ないが、市全体で考えた時に、市役所がどこにあったらいいのかという考え方だと思う。そうすると、それもやはりかなり難しい。 ・今までのまちづくりの中で、現位置に市役所があることを想定していたか、していないかといったら、間違いなく、想定された上で、皆さんここでやっている。・駅から市役所、内湾エリアという動線を確保されてきた。観光客だけでこのまちが成り立つわけではないので、市役所の職員の人たちの需要もあった。 ・何百人の人たちが、現位置の周辺で駐車場を借りているので、市役所が移転すると全部空き地になる可能性があり、固定資産税への影響が懸念される。 ・まちの構造的な問題、骨格的な問題に関することなので、もっと考えるべきではないか。 ・今後のまちづくりとして展望が開けていくのかという視点が、抜けている気がする。 (菅原委員) 	—
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸の人たちの皆さまは本当にご苦労して、前のまちにしようと日夜努力していることには敬意を表したいが、ここ何年か前から店をやめて駐車場にする方が多くなって、別な地に移動している。 ・気仙沼駅から降りた段階で、皆さんが言いますけれども、代わり映えがないということである。 ・まちの流れからいえば、八日町から田中前・東新城の方に移動する時期になってきているという意見である。 ・意欲というか、現位置はずっと駐車場だらけ。そういった面で、もっと努力したほうが良かったのではないのか。 ・移動しろというわけではないが、市も協力し、跡地の使い道を考えるなど、商店がもっと協力していくとか、そういうものはこれからだと思う。 (遠藤委員) 	—

カテゴリ	No	意見等	市当局より
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・旧市立病院の評価は、○で妥当だと思う。ただ、現位置の評価について、市役所のある地域のうち、内湾地区に限定すれば評価は○でいいと思うが、果たして市役所がどのくらい八日町、三日町の商店街のまちづくりに貢献しているのかを考えると、現位置の評価は△と思う。 ・旧市立病院跡地の方も何もない所で、自分たちで頑張ってアイデアを出して商店街を作っている点の評価すれば旧市立病院の評価を○と思っています。 ・基本理念の防災機能の充実と連携強化に沿ってやれば、私は旧市立病院跡地がぴったり来ると思っている。 (春日委員) 	—
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所が三日町・八日町のまちづくりに寄与して言えるかという話については、測定の可否はあるが、集積人口や職員・関連する人たちの人口とその人たちの購買率などを調べなければいけないのではないか。人が通ればお金が落ちる可能性が高いので、その要素があるかないかは当然大きいことである。 ・一番大きいのは、精神的なというか、可能性を持てるか、持てないかというところではないか。 ・にぎわいがあることの価値、目に見えない価値、存在感が、やはり実は現位置周辺を支えてきた一つだろう。 ・変わることは決して悪いことではないが、簡単にぼんと移ってしまうことについての抵抗感は、皆さんやはり持っている。 (菅原委員) 	—

カテゴリ	No	意見等	市当局より
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクを考えたときに、現位置から市役所がなくなった場合と、旧市立病院跡地に市役所が移らなかった場合を考えたリスクは、やはり現位置から市役所がいなくなった時の方が大きいと思う。 ・八日町ブランドや内湾ブランドは、決して内湾の人のためだけではない。 ・買い物と一緒に市役所に寄りたいという話あるが、市役所に来る頻度は確実に減っていくと考えているが、他の委員の意見も伺いたい。 ・今の価値観や、評価項目を防災に関するものは別として、利便性だけで決めることが納得できなくて、それが日本初のスローシティの決め方なのか。 ・大事にしたいのは、そのまちの物語やストーリーだと思う。感情に対して人は共感する、もしくはそれに対して消費をしていく時代になっていくと言われる中で、何か利便性だけの話に陥っている。 ・市役所がそのまちの一丁目一番地にある精神的な意味は大きいのではないかと。(加藤委員) 	—
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの話は本当に市の政策的な問題で、あとはそれぞれの地域ごとの主観的な問題なので、この有識者会議では、では難しい。 ・個人的に思うのは、現位置の土地の活用方法として、市役所がベストなのか。それを疑っても良いのではないかと。(峯浦副委員長) 	—

カテゴリ	No	意見等	市当局より
議長まとめ (市全体のまちづくりへの貢献について)	9	<ul style="list-style-type: none"> ・固定資産税や駐車場の課題について指摘があり単純に評価することは難しいが、市全体ではプラスマイナスになっているのではないか ・都心部ばかりの話をしている、市全体の他のエリアの人の疎外感が懸念される。 ・市役所がどちらかにあると、市全体にどのような影響があるのかは、それぞれの立場から一応ある。 ・市役所の事務局にも、まちづくりをどうするのかと、説明を求めたが、今までプランがないので新しく作るには、相当時間がかかるので、全体のスケジュールを鑑みても事実上難しいのではないか。 ・これまでの議論では、現位置から市役所がなくなることの損失についての意見もあれば、新しい所に行ったほうが新しい経済の流れに近いものもあるのではないかという意見もあれば、現位置に行っても、将来あまり発展がないので、あまり変わらないのではないかということで、旧市立病院跡地に行ったほうが良いと考えるべきだというご意見など、いろいろな意見が出た。 ・この評価項目は、跡地利用や集客力について評価した方が良いが、当該会議で言及は避けるべきとだと思ふ。 (丸谷委員長) 	—

■基本方針4 事業の経済性等を考慮した位置について

該当資料：資料2「候補地の比較評価一覧表（案）」P4, 資料2別添「概算総事業費について」、資料3「建設候補地の評価資料」P40～42

カテゴリ	No	意見等	市当局より
事業費について	1	<ul style="list-style-type: none"> 金額は大きく違っているので、評価は妥当ではないか。 この総事業費は市の想定内の額であったと理解してよろしいか。 旧病院跡地の既存施設を活用した際、新築面積が40平米と記載がありますが、錯誤ではないか。 (矢口委員) 	<p>総費用につきましては、合併特例債が57億円ぐらいあって、建物に60億ぐらいかかるという話をしてきました。それはあくまで建物部分ですので、我々としては、総費用としては想定内の内容です。</p> <p>また、実際に市立病院の既存建物を活用した場合と一部を新築した場合、全てを新築した場合の3つの案を比べると、既存建物を活用した場合でも不足した40㎡を新築することとして費用を計上していますが、実際はそうはならない話が出てくると思います。</p> <p>本当に既存建物を改修して利用することが有利なのか、実際は分かりません。さらに精査が必要であり、場所の選定には直接関わらないかもしれませんが、選択するには再精査が必要と思います。</p> <p>建物の種類にもよると思います。例えば既存の病棟では議場はできないので、新築する部分は、議場を全部包含するものとなれば、それなりの面積が必要になると思いますし、そうでもなければ、また別の考えをと、そのようなことは、どうしてもまだ含まれてしまうと思います。</p> <p>(市長)</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> 概算事業について、建築単価は1㎡当たり50万円と確認しましたが、算定の前提としている構造は、どのようなものを想定しているのか。 想定される事業費と考えていいのか、そのぐらいの精度があるのかどうか、具体性があるのか。 (吉田委員) 	<p>建築単価ですけれども、1㎡当たり50万円と仮に設定しています。その50万円の根拠につきましては、他市の事例です。具体例として、岩手県宮古市でも、基本構想を策定する際に1㎡当たり50万円という単価を採用していることを確認しています。</p> <p>また、1㎡当たり50万円の収集した事例の中では、免震構造・耐震構造が混在したものの平均値を単価としています。</p> <p>なお、他市の事例は、過年度（H23～H29）に建設しているもので、物価の上昇率も加味し想定単価としています。</p>
議長まとめ	3	<ul style="list-style-type: none"> 評価は仮の試算であり、約束されるものではないが、要請したので事業費を比較するための資料です。 評価として、旧病院の○と現位置の△については特にご異論がなく、ある程度評価がひっくり返るようなことはないだろうというご意見もあった。 (丸谷委員長) 	—

■評価項目全体について

カテゴリ	No	意見等	市当局より
議長まとめ	1	<ul style="list-style-type: none"> ・現位置と旧市立病院の評価について、『基本方針 3 市全体のまちづくりを考慮した位置』の評価項目については保留。延長戦をするかどうかは、別途議論する。 ・基本方針 1・2・4 の項目について、旧市立病院が有利なものがあったけれども、現位置が有利だという項目はなかったように集約されたと思う。 ・『基本方針 3 市全体のまちづくりを考慮した位置』の取り扱いをどうするかについて、次回まで 3 の議論を延長して、仮に基本方針 3 の評価項目が他の基本方針の評価と比較し、旧市立病院の方が良いという項目が逆転するような評価が固まれば、違った結論になる。 ・『基本方針 3 市全体のまちづくりを考慮した位置』は評価が難しいことや、評価にまちづくり計画まで入れた場合、この委員会の視野を超えた議論となることが想定される。 ・各評価項目で評価の差の程度はいろいろな議論があったので、評価の差の程度はあるにしろ、現位置よりも旧市立病院のほうが上だったというところと、同じだったというところで、○△は集約された。 (丸谷委員長) 	—

■評価項目のまとめ方について

カテゴリ	No	意見等	市当局より	
まとめ方について	1	<ul style="list-style-type: none"> 結論の出し方のイメージを決めないといけない。 結論を出すのは最終的に市役所なので、この委員会で決めるのは難しいのではないか。 (峯浦副委員) 	<p>「基本方針3 市全体のまちづくりを考慮したい位置」については結論が出ないということであれば、「基本方針1 市民が利用しやすい位置」, 「基本方針2 防災上の安全性が高く、防災上の連携を考慮した位置」, 「基本方針4 事業の経済性等を考慮した位置」に関しましては、こういう結果でしたというのを頂くのはありだと思います。</p> <p>事務局としては、有識者会議として、できるだけ議論が反映されたものを出してもらえないということに、最終はなってしまうのではないのでしょうか。いずれにしても、最終判断は市役所で判断をして、あとは、実際に進める時は市民に説明をして進めることになります。 (市長)</p>	
	2	<ul style="list-style-type: none"> 明確に1箇所出すか、それともそれぞれについて議論を詳細に記録したものを報告するかの2択ではないか。 (丸谷委員長) 		
	3	<ul style="list-style-type: none"> 議論をすることに対しては賛成だが、最終的に今の議論をそのまま議事録として出すということについては、事務局として差し支えないのか。 (加藤委員) 		
	4	<ul style="list-style-type: none"> 何か共通の認識として持てるものが幾つかあるのであれば、それを出してもらって、その上で、この範囲で議論してくださいと道筋を作ってもらわないと、我々としては、これ以上は無理ではないか。 将来のまちづくりに向かって、両方可能性があるのだから、それは委員会として現位置の○と旧病院の○でもいいと思う。 (吉田委員) 		—
	5	<ul style="list-style-type: none"> 最終案を1つに絞って出すだけではないというのであれば、ここできちんと対話し尽くすこと自体にも価値がある。1つに合わせようというのは、多分無理だろう。 (加藤委員) 		—
	6	<ul style="list-style-type: none"> 最終案として明確に1箇所にお互いにまとめるのは無理。それぞれの考え、立場があって発言すると思う。 (遠藤委員) 		—
	7	<ul style="list-style-type: none"> 現庁舎の課題を踏まえ、課題を解決するための、基本理念、基本方針を決めた。 感情論もよく分かるが、この理念をとっても大事にしたい。 今日は、決定候補を決めたほうが議論は進むと思う。 (春日委員) 		—
	8	<ul style="list-style-type: none"> 強く踏み込むというよりは、方向性程度に留めるべきではないか。 (小野寺(有)委員) 	—	
	9	<ul style="list-style-type: none"> 方向性だけに留めるべき。 次回では、庁舎の機能や性能の部分をきちんと話し合いをしたほうがいい。 (小野寺(克)委員) 	—	

カテゴリ	No	意見等	市当局より
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・現位置は過去 50 年, 100 年に渡って, 市が庁舎を構えていた場所であって, まちはそれを骨格としている成り立ってきたという, この経緯は間違いないと思う。 ・位置を変えるのだったら, もっとそれなりの覚悟と, これからのビジョンをきちんと持たなくていいのか心配である。 ・結論付けられるのかという点, 多分それはかなり難しい。ここまで来たら, 議論の材料は出尽くしているのだから, もう市の方で政治的な判断をすべきタイミングにも来ていると思う。 (菅原委員) 	—
議長まとめ	11	<ul style="list-style-type: none"> ・「3 市全体のまちづくりを考慮したい位置」以外については, 市立病院の方が有利なものがあったけれども, 現位置の方が有利だという項目はなかったように集約された。 ・「3 市全体のまちづくりを考慮したい位置」については, いろいろな考え方があり, 同じぐらいなのではないか, こちらがいいのではないかとすることは, 少なくとも合意がとれない結果となった。 ・1 箇所に決めるとすれば投票ぐらいしか方法がないが, その必要があるかという点, 「3 市全体のまちづくりを考慮したい位置」以外については差がついていることと, 街づくりについて, これ以上の議論は有識者会議の範疇を超えていることから, 有識者会議としてはきちんと議論を整理して, 判断は市に委ねたい。 ・今回は, 若干は時間を取って, 何かお話ししておきたいことがあれば追加できる形にしたい。 (丸谷委員長) 	<p>市としては, いずれにしても答申を頂いた後に, ここで進めたいと決めなくてはなりません。その時には, 「3 市全体のまちづくりを考慮したい位置」以外がこうでしたから, また有識者会議の〇の数がこうでしたから決めましたというような決め方はしません。それは大変重要な参考として尊重した上で, 市としては, こういう考え方を持ってこちらを選択しました。従って, このまちはこのようにしていきたいし, このまちはこのようにしていきたいということを併せて発表しなければ, 市民の納得はないと思っています。</p> <p>そこから, 実施はどこに行こうが 7 年もかかります。その間, ものすごくいろいろなことをしていかななくてはならないと思います。それもお金のかかることかもしれませんけれども, いろいろな意味で市民の意識も含めて, 醸成して, 市役所はこうなって, そちらのまちはこうなると, こちらのまちはこのようにするという点, 皆さんと一緒にまちづくりができるような形で発表したいと思っています。</p> <p>併せて, あとは今回の〇と×も含めて, 事務的にはチェックをしたいと思いますので, 今日のお話のような議論がありましたということ頂ければ, それはそれで判断をして, 市民の皆さんに説明できる, まちづくりを含んだ考え方を示すことにしたいと思います。 (市長)</p>

(3) その他

- ・第 7 回有識者会議は, 令和元年 12 月 7 日 (土) 午後 3 時から開催予定。

(17:15 閉会)